

平成30年度

学校が変わる！「ポジティブな行動支援」事業

かもっこスマイルプロジェクト

算数チャレンジ

徳島県三好郡東みよし町立
加茂小学校

本年度の方向性

- 算数チャレンジや漢字の読みなど、新しく職員間で合意した取組を行動面の取組と同時並行して取り組む。



加茂小学校の実態と教員の願い

学校の実態

- 基礎基本が定着している児童がいる一方で、充分でない児童もいて、学力に二極化傾向が見られる。
- 計算力はあるとしても流暢さ（スピード）に課題のある児童も見られる。

教員の願い

- 思考力を支える基盤となる、基礎的な計算力を高めていきたい。
- 行動支援ですすであるポジティブサイクルを、学習支援にも活用して意欲を高めていきたい。



指導目標

1年

数操作やたし算・ひき算の習熟を図る。

2年

九九の定着を図る。

3年

九九の習熟を図る。

割り算の文章題（冊子）をやりきる。

4年

かけ算やわり算の習熟を図る。

四則混合計算の流暢性（スピード）を高める。

指導期間・指導した内容

1年 8月末～現在

数の大小比較、数系列、さくらんぼ算、たし算、ひき算

2年 8月末～現在

たし算、ひき算、九九（かけ算）

3年 8月末～現在

数系列、かけ算、四則混合計算、割り算の文章題（別冊子）

4年 9月末～現在

数系列、たし算、ひき算、かけ算、わり算、四則混合計算

指導の手だて

- 算数科の授業中、またはドリルタイムなどで1回10分程度で実施。
(慣れてくれば全て実施で5分・丸付けは児童同士の交換)
- ほとんどの学級で週4日、1日1枚実施。
- 7月末と12月末に算数のアセスメントを実施。流暢性を比較する。
- 個人別に記録シートを作成し、自分で結果をグラフにして記入した。(自分で自分にフィードバックを行う)

使用した教材・プリント

| | | | |
|---|---|----|---|
| 4 | 1 | 6 | 5 |
| 4 | 7 | 10 | 9 |

大小比較

| | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 15 | 20 | __ | 30 | 20 | 25 | 30 | __ |
| 30 | __ | 40 | 45 | 70 | __ | 80 | 85 |

数系列

| | |
|--------|--------|
| $4+2=$ | $3+3=$ |
| $0+7=$ | $1+8=$ |

たし算

| | |
|--------|---------|
| $4-2=$ | $13-4=$ |
| $4-1=$ | $6-0=$ |

ひき算

| | |
|---------------|---------------|
| $8 \times 7=$ | $8 \times 8=$ |
| $8 \times 3=$ | $8 \times 6=$ |

かけ算

| | |
|--------------|--------------|
| $32 \div 4=$ | $36 \div 4=$ |
| $28 \div 4=$ | $12 \div 4=$ |

わり算

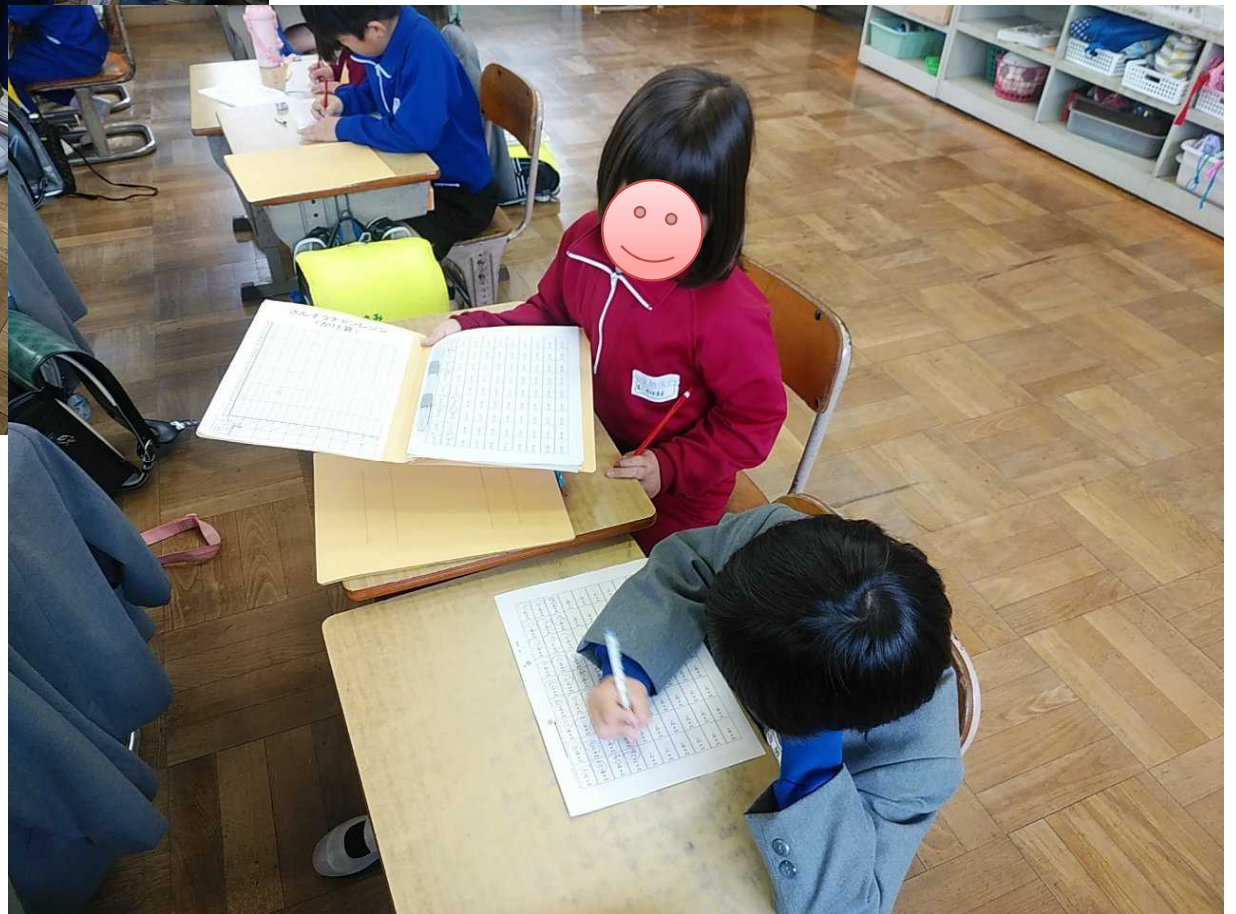
| | |
|------------------|------------------|
| $__ \times 2=14$ | $__ \times 2=8$ |
| $__ \times 2=18$ | $__ \times 2=16$ |

穴あき九九

| | |
|-------------|---------------|
| $9 \div 1=$ | $6-4=$ |
| $3+4=$ | $0 \times 5=$ |

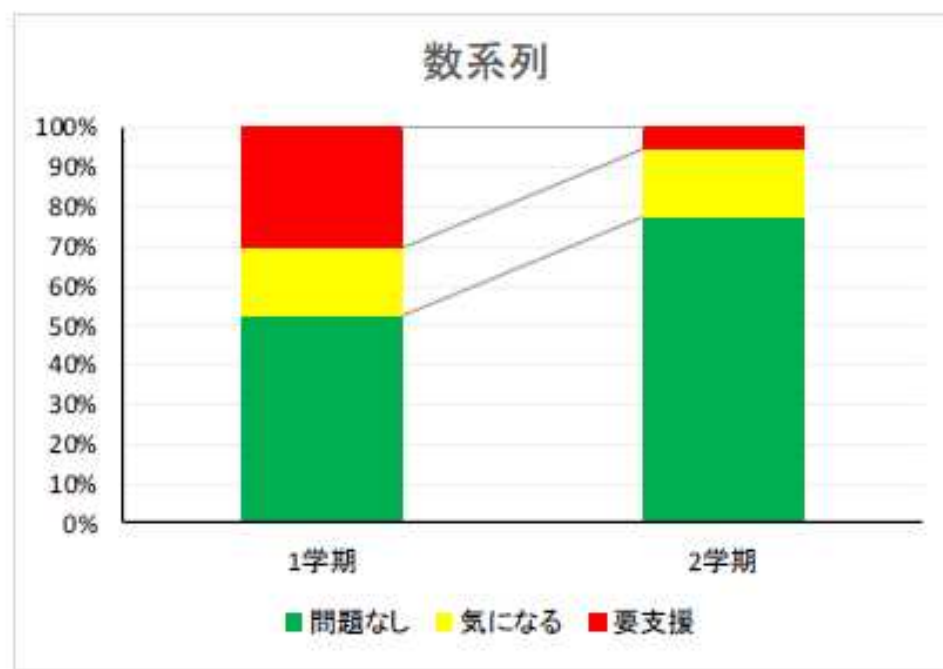
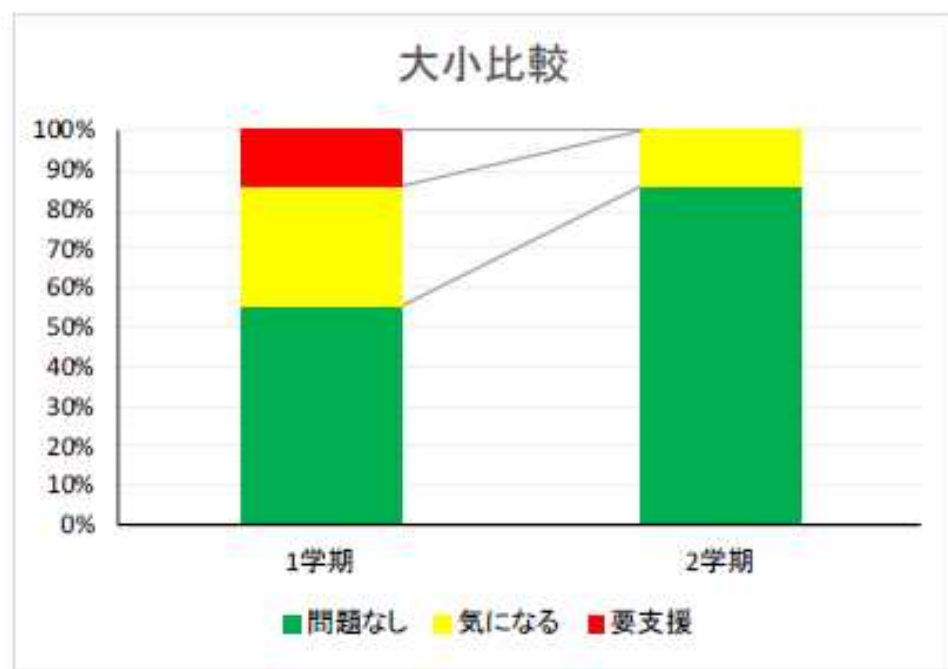
四則混合計算

取組中の児童の様子



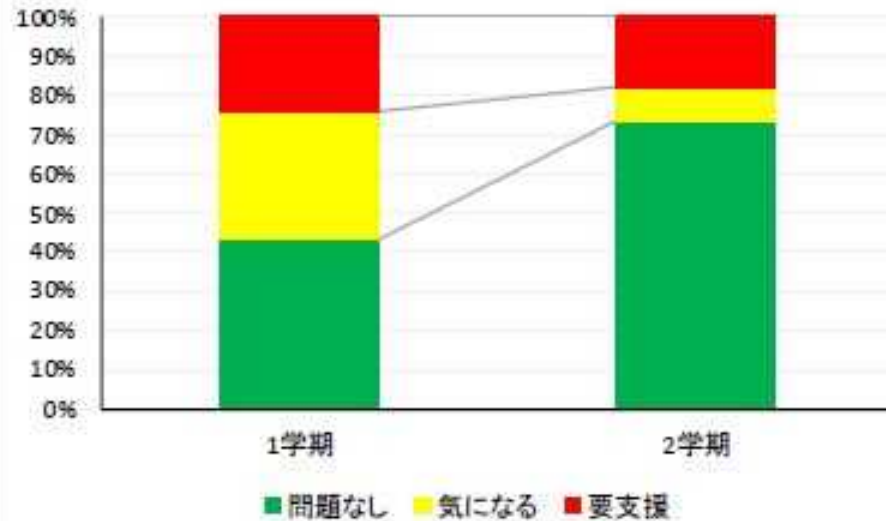
結果（1年）

- 1分間テストにおける正答数
⇒どれくらい正しくかつスラスラ解けるか（流暢さを測る）
- 関西圏の公立小学校の児童（約2,100名）のデータをもとに基準値を設定
 - 要支援・・・標準的な小学生の下位10%以下（赤）
 - 気になる・・・標準的な小学生の下位10%以上25%以下（黄）
 - 問題なし・・・標準的な小学生の下位25%以上（緑）

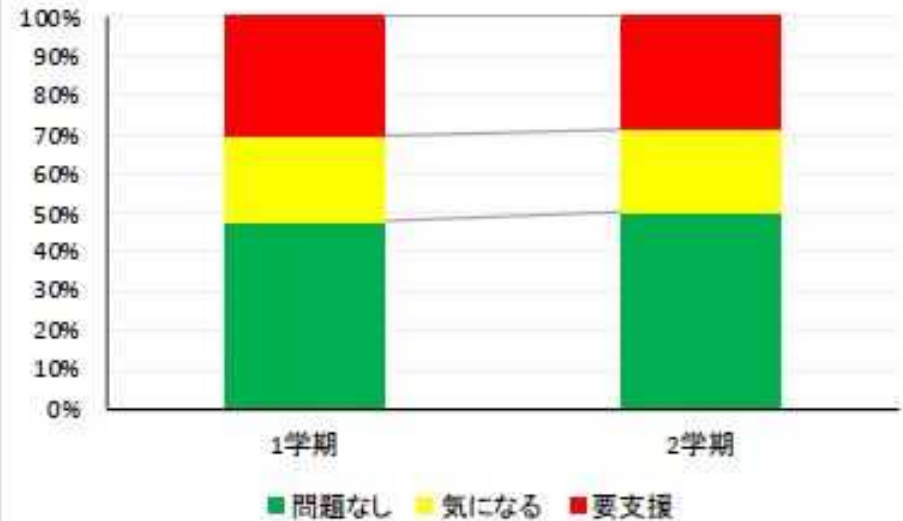


結果（2年）

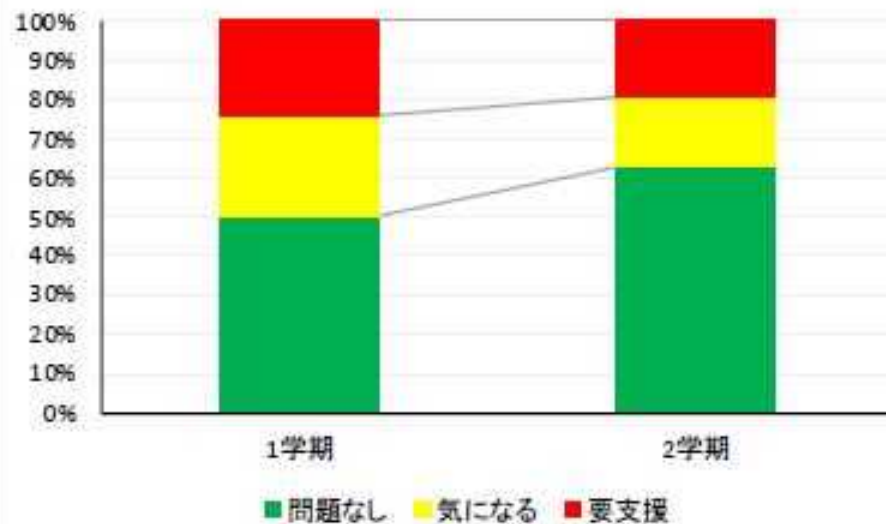
足し算



引き算

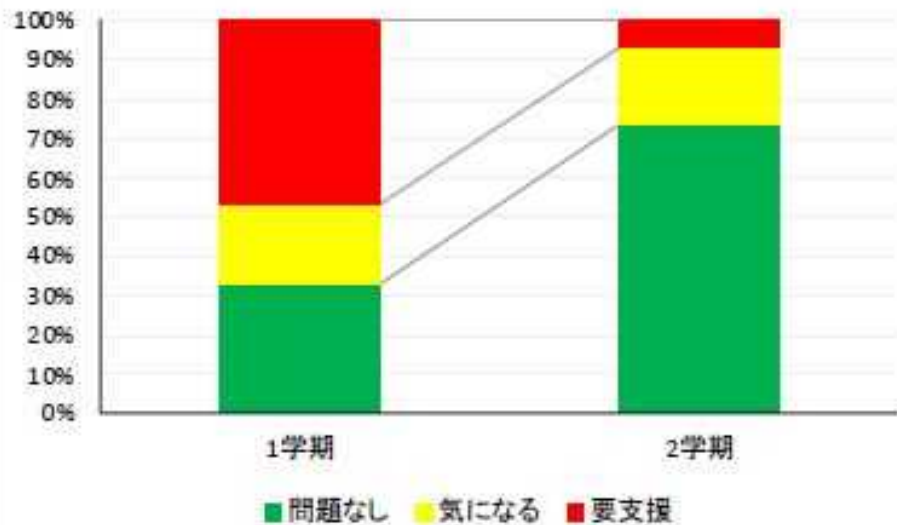


足し算&引き算

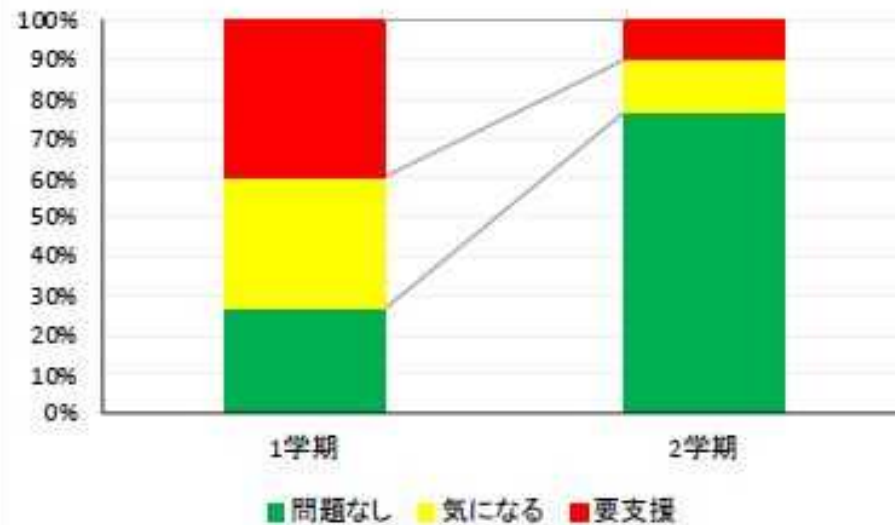


結果（3年）

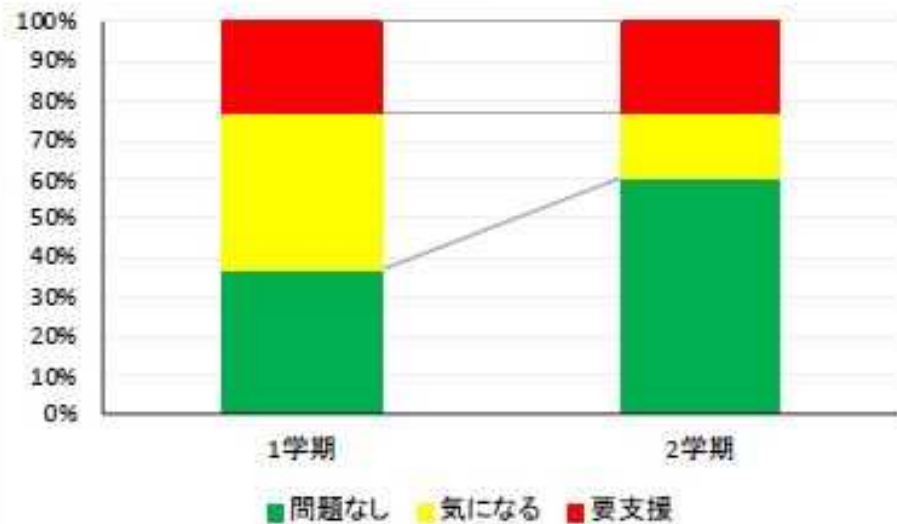
掛け算



割り算

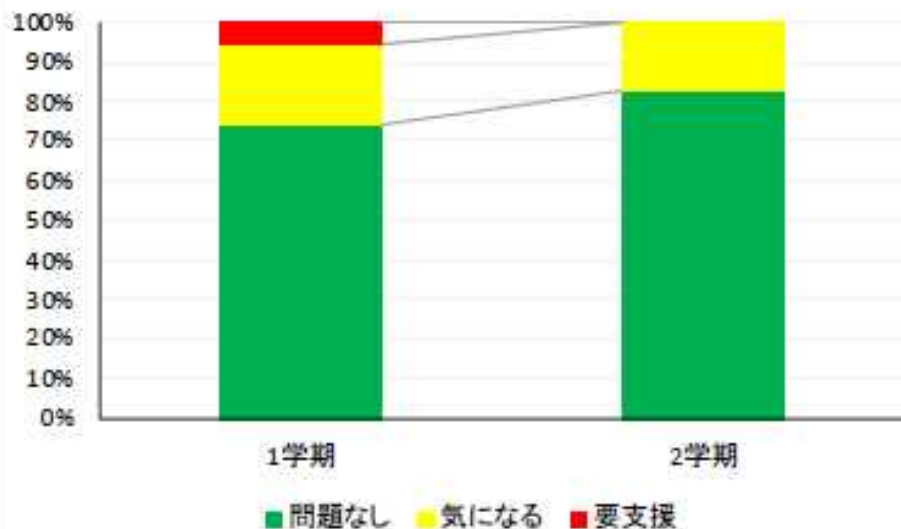


四則混合

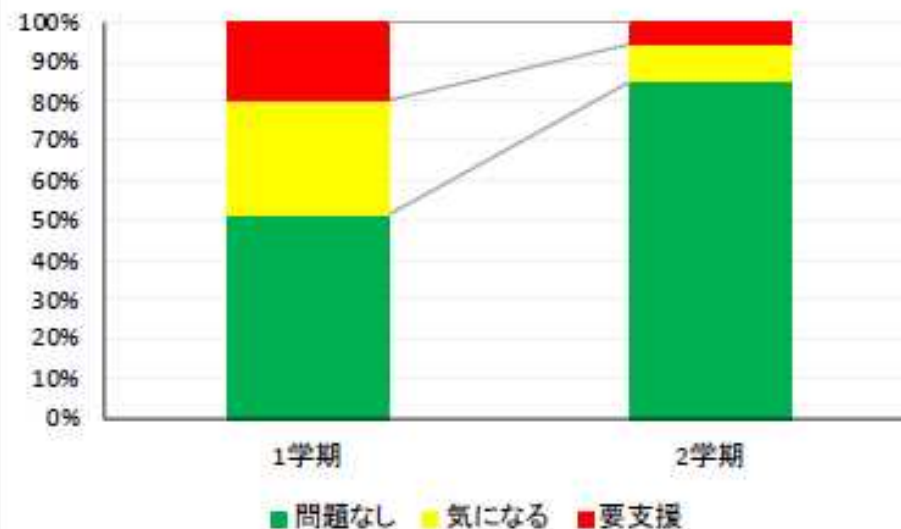


結果（4年）

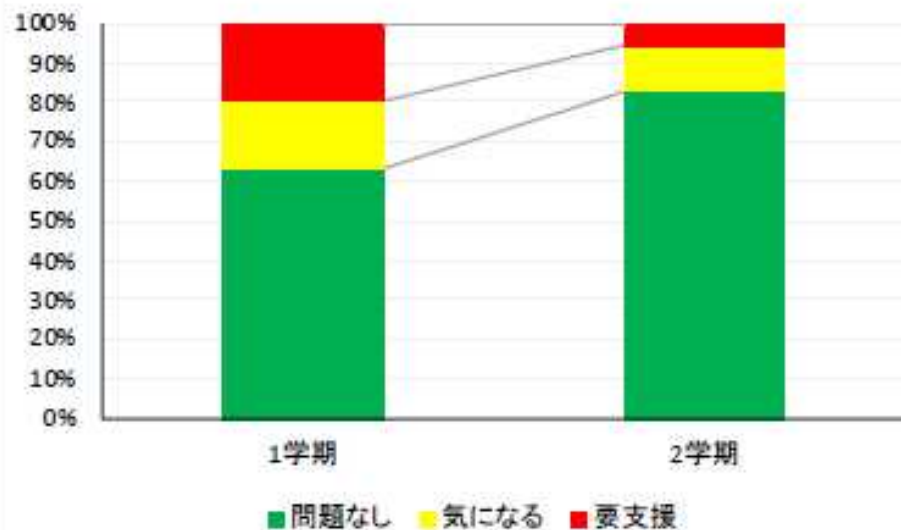
掛け算



割り算



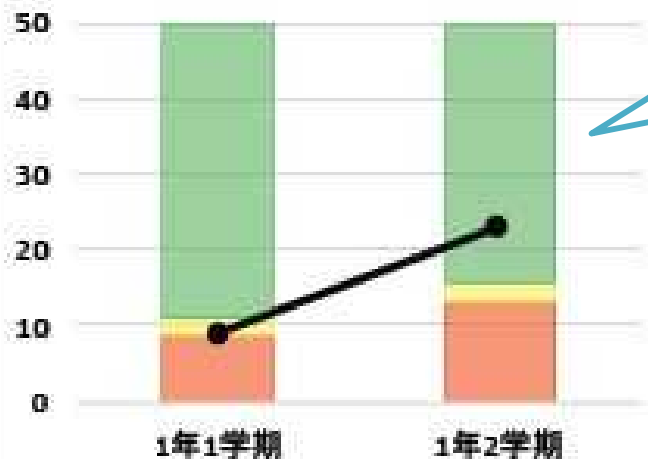
四則混合



結果 (個別)

7月のアセスメント時に赤のゾーンが3~4つあった児童の伸び (標準下位25%以下)

数系列(1年生)



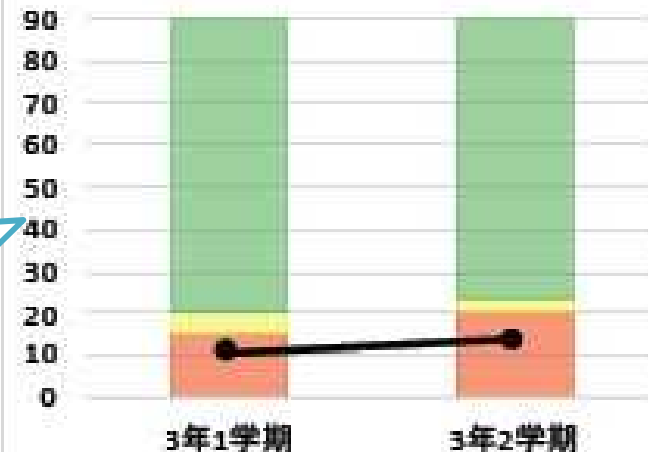
標準的な成長を上回る伸びが見られた。
下位25%以上に成長。

成長が見られるが、標準を上回る程度ではなかった。

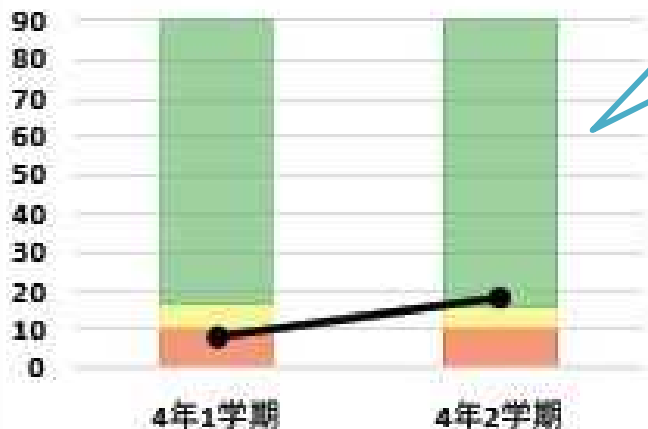
標準を上回る伸びにより、
赤 (下位10%以下) エリアから
緑 (下位25%以上) エリアへ。

かなり本人なりに努力したが、標準を上回る程度伸びではなかった。

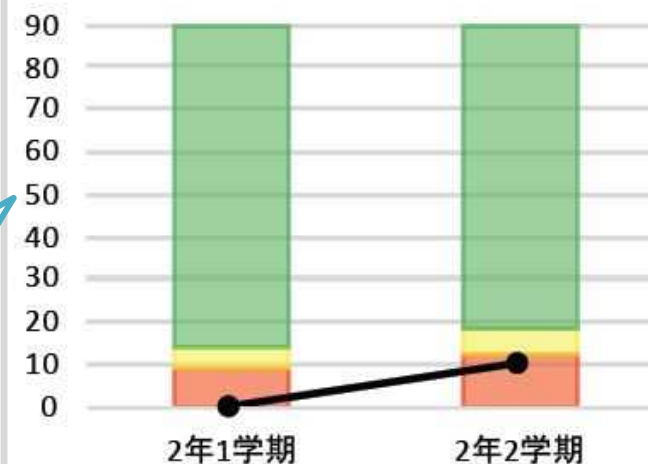
足し算(3年生)



割り算(4年生)



足し算(2年生)



○算数チャレンジのやり方で意欲が向上した児童は、標準よりも大きな伸びがあった。

△算数チャレンジの反復だけでは、効果が思ったよりもあがらない児童も存在した。

取り組んでみての様子（児童）

- ほとんどの学年で児童たちは算数チャレンジに抵抗なく（意欲的に）取り組んだ。
- 達成度のグラフを自分で記入する仕組みなので、自分自身で伸びを捉えやすかった。それが動機付けにつながった。
- 1分間という短時間の実施であったので、普段は飽きやすい児童も集中できた。
- 実施回数を重ねるごとに、児童らが手続きに慣れ、5分～10分でどの学年も実施できた。

考察

- 1年生では、（就学前の経験も考慮すると）
練習効果が顕著に表れやすい。
= 早期対応が重要である
- 担任が重点的に取り組もうと意図した分野が
伸びており、練習量の確保により一定程度の
伸びが見られた。
= 練習量だけで十分な伸びが見られない児童
も見られたので、さらに配慮する必要がある。

今後の課題

- P B Sによる行動支援、学習支援を続けるために、学校として取り組むことの焦点化を図ること（新しい仕事を増やさない）。
- 第1層支援（学級全体での取組）では、伸びが不十分な児童への対応。
= 小集団指導or個別的指導
- データに基づいた意思決定を行うために研修の機会を確保すること。